

第 1 問

【解答】

	借方		貸方	
1.	売買目的有価証券	4,877,000	当座預金 当座借越	4,600,000 277,000
2.	仕入	381,700	受取手形 売掛金 現金	130,000 250,000 1,700
3.	資本金 租税公課	164,000 126,000	現金	290,000
4.	旅費交通費	4,600	現金過不足	4,600
5.	損益	794,000	資本金	794,000

【解説】

仕訳記入のさい、示されている勘定科目のなかから最も適当なものを選ぶことが大切である。

1. 社債を購入し、当座預金残高を超える小切手を振り出したときの仕訳を問う問題である。

- ・ 売買を目的とする社債を購入したときは、売買目的有価証券勘定（資産）の借方に記入する。そのとき、以下の 2 点に注意すること。

- ① 購入手数料は有価証券の購入代価に加算する
- ② 社債の購入代価は次のように計算する

新版日商簿記 3 級 テキスト P.100 参照

$$\text{購入単価} \times \frac{\text{額面金額}}{\text{¥100}} \times \text{購入口数} \quad @97.30 \times \frac{\text{¥5,000,000}}{\text{¥100}} = \text{¥4,865,000}$$

以上のことから、(借) 売買目的有価証券 **4,877,000** (買入代価 ¥4,865,000 + 購入手数料 ¥12,000)

- ・ 小切手を振り出して支払ったときは、当座預金勘定の貸方に記入する。
そのとき、小切手の金額 > 当座預金の残高であったら、次の 2 点に注意する。

- ① 当座預金の残高を全額減らす → (貸) 当座預金 ××
- ② 差額を当座借越勘定 (負債) で処理する → (貸) 当座借越 ××

以上のことから、(貸) 当座預金 **4,600,000**

当座借越 **277,000** (¥4,877,000 - ¥4,600,000)

新版日商簿記 3 級 テキスト P.66 参照

2. 商品を仕入れ、代金として約束手形を裏書譲渡するとともに、為替手形を振り出した仕訳を問う問題である。

- ・ 商品を仕入れたときは、仕入勘定の借方に記入する。そのとき、引取運賃は仕入原価に加算する (仕入に加える)。 **新版日商簿記 3 級 テキスト P.75 参照**

(借) 仕 入 **381,700** (購入代価 ¥380,000 + 仕入諸掛 (引取運賃など) ¥1,700)

- ・ 手形を裏書譲渡したときは受取手形勘定の貸方に記入する。

(貸) 受取手形 **130,000**

新版日商簿記 3 級 テキスト P.96 参照

- ・ 為替手形を振り出したときは、名宛人に対する売掛金が減少するので、売掛金勘定の貸方に記入する。

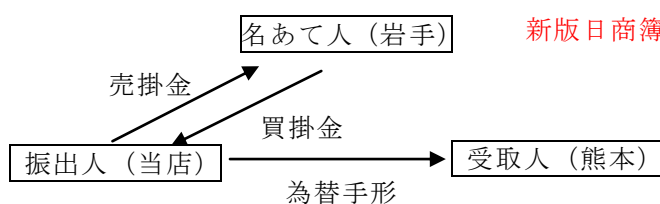
(貸) 売 掛 金 **250,000**

- ・ 引取費は現金で支払った

(貸) 現 金 **1,700**

確認

為替手形の問題は以下のように図式化するとわかりやすい



新版日商簿記 3 級 テキスト P.95 参照

- ・ 為替手形は、振出人が名宛人に手形代金の支払を委託 (お願い) する証券である。お願いする見返りとして、振出人は名宛人に対する売掛金が減少する。

振出人 (借) ○ ○ ×× (貸) 売 掛 金 ××

名あて人は、買掛金が減少するとともに、手形金額を支払う義務 (手形債務) が発生するので、支払手形勘定 (負債) の貸方に記入する。

名あて人 (借) 買 掛 金 ×× (貸) 支 払 手 形 ××

3. 固定資産税と所得税を納付したときの仕訳を問う問題である。なお、一部が店主個人居住部分に対するものである。

- ① 固定資産税などの税金（所得税と住民税を除く）を納付したときは、租税公課勘定（費用）の借方に記入する。

しかし、 新版日商簿記 3 級 テキスト P.121 参照

- ② 店主個人居住部分に対するものは私用にあたるので、資本の引き出しとして処理する。つまり資本金の借方に記入する。

(借) 租税公課 **126,000** ← ¥168,000 × (100 - 25)%
 資本金 **42,000** ← ¥168,000 × 25%

新版日商簿記 3 級 テキスト P.118、新版日商簿記 3 級 問題集 P.99 参照

- ③ 所得税を納付したときは、資本の引き出しとして処理する。

(借) 資本金 **122,000**

新版日商簿記 3 級 テキスト P.121 参照

- ④ 現金で納付した。 (貸) 現金 **290,000**

4. 現金過不足の原因が判明したときの仕訳を問う問題である。

- ① 現金過不足の原因が判明したときは、該当する金額を現金過不足勘定から該当する勘定へ振り替える。たとえば、旅費交通費の記入漏れがあったときは、旅費交通費勘定の借方に記入する。 (借) 旅費交通費 **4,600**

- ② 貸方は現金過不足勘定で処理する。 (貸) 現金過不足 **4,600**

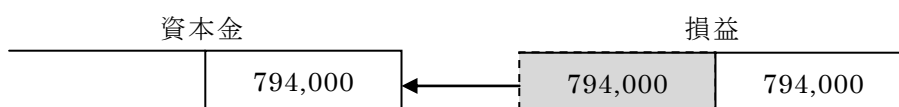
新版日商簿記 3 級 テキスト P.63 参照

5. 損益勘定の残高を資本金勘定へ振り替える仕訳を問う問題である。

- ① 帳簿決算から、損益勘定には次のように記帳されていることが分かる。



- ② そこで、損益勘定の残高（貸方 ¥794,000）を資本金勘定へ振り替える。



(借) 損 益 794,000 (貸) 資 本 金 794,000

新版日商簿記 3 級 テキスト P.44 参照

第 2 問

【解答】

繰越商品

(1/1)	〔前期繰越〕	(50,000)	(31)	〔仕 入〕	(50,000)
(31)	〔仕 入〕	(45,000)	(31)	〔次月繰越〕	(45,000)
		(95,000)			(95,000)

売上

(1/16)	〔売掛金〕	(20,000)	(1/10)	〔売掛金〕	(100,000)
(31)	〔損 益〕	(180,000)	(20)	〔現 金〕	(75,000)
			(25)	〔受取手形〕	(25,000)
		(200,000)			(200,000)

仕入

(1/7)	〔買掛金〕	(60,000)	(1/12)	〔買掛金〕	(10,000)
(18)	〔支払手形〕	(90,000)	(31)	〔繰越商品〕	(45,000)
(31)	〔繰越商品〕	(50,000)	(〃)	〔損 益〕	(145,000)
		(200,000)			(200,000)

損益

(1/31)	〔仕 入〕	(145,000)	(1/31)	〔売 上〕	(180,000)
--------	-------	-----------	--------	-------	-----------

【解説】

分記法で記帳されている資料をもとに、3 分法で処理した場合の記帳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.74 参照

- ① 資料の勘定記入より分記法の仕訳を推定する。そのさい、日付順に仕訳を推定する。
- ② 分記法で行った仕訳を 3 分法の仕訳に書き改める。そのつど該当の勘定に転記することが大切である。

【分記法】

【3分法】

	借方		貸方		借方		貸方	
1/7	商 品	60,000	買掛金	60,000	仕 入	60,000	買 掛 金	60,000
10	売 掛 金	100,000	商 品	80,000	売 掛 金	100,000	売 上	100,000
			商品売買益	20,000				
12	買 掛 金	10,000	商 品	10,000	買 掛 金	10,000	仕 入	10,000
	仕入れの戻し（返品）または値引き取引である							
16	商 品	15,000	売 掛 金	20,000	売 上	20,000	売 掛 金	20,000
	商品売買益	5,000						
	売上の戻り（返品）取引である							
18	商 品	90,000	支払手形	90,000	仕 入	90,000	支払手形	90,000
20	現 金	75,000	商 品	60,000	現 金	75,000	売 上	75,000
			商品売買益	15,000				
25	受取手形	25,000	商 品	20,000	受取手形	25,000	売 上	25,000
			商品売買益	5,000				

③ 決算手続に関する仕訳（決算整理仕訳および決算振替仕訳）を行う。

④ 新版日商簿記 3 級 テキスト P.143 参照

31	仕訳不要		【決算整理仕訳】		売上原価の計算			
					仕 入 50,000	繰越商品 50,000		
					繰越商品 45,000	仕 入 45,000		
					¥50,000は月初商品棚卸高			
					¥45,000は月末商品棚卸高			
〃	商品売買益 35,000		損 益 35,000		【決算振替仕訳】		新版日商簿記 3 級 テキスト P.44 参照	
							①収益（売上勘定の残高）を損益勘定へ振り替える	
					売 上 180,000	損 益 180,000		
					②費用（仕入勘定の残高－売上原価－）を損益勘定へ振り替える			
					損 益 145,000	仕 入 145,000		

第 3 問

【解答】

合計残高試算表
平成 25 年 1 月 31 日

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
378,000	530,000	現金	152,000	
902,000	1,500,000	当座預金	598,000	
300,000	500,000	受取手形	200,000	
580,000	1,050,000	売掛金	470,000	
	15,000	貸倒引当金	24,000	9,000
280,000	280,000	繰越商品		
20,000	120,000	前払金	100,000	
	60,000	前払家賃	60,000	
600,000	600,000	備品		
		備品減価償却累計額	240,000	240,000
	100,000	支払手形	330,000	230,000
	370,000	買掛金	650,000	280,000
	120,000	前受金	150,000	30,000
		資本金	2,136,000	2,136,000
	5,000	売上	870,000	865,000
560,000	580,000	仕入	20,000	
98,000	98,000	給料		
60,000	60,000	支払家賃		
5,000	5,000	通信費		
7,000	7,000	水道光熱費		
3,790,000	6,000,000		6,000,000	3,790,000

【解説】

前期末の貸借対照表に 1 月中の取引を加算し、5 月末の合計残高試算表を作成する問題である。

I. 1 月中の取引を仕訳する。

① 現金に関する取引

a. (借) 前払金 40,000 (貸) 現金 40,000

新版日商簿記 3 級 テキスト P.110 参照

b. (借) 仕入 100,000 (貸) 現金 100,000

c. (借) 現金 50,000 (貸) 前受金 50,000

新版日商簿記 3 級 テキスト P.110 参照

d. (借) 通信費 5,000 (貸) 現金 5,000

e. (借) 水道光熱費 7,000 (貸) 現金 7,000

f. (借) 現金 100,000 (貸) 当座預金 100,000

② 当座預金に関する取引

a. (借) 当座預金 150,000 (貸) 受取手形 150,000

※受け取った約束手形が満期になり、当座預金に入金した取引

新版日商簿記 3 級 テキスト P.91 参照

b. (借) 当座預金 450,000 (貸) 売掛金 450,000

c. (借) 支払手形 100,000 (貸) 当座預金 100,000

※振り出した約束手形が満期になり、当座預金から支払われた取引

新版日商簿記 3 級 テキスト P.91 参照

d. (借) 買掛金 300,000 (貸) 当座預金 300,000

e. (借) 給料 98,000 (貸) 当座預金 98,000

f. ~~(借) 現金 100,000 (貸) 当座預金 100,000~~

※①の f.と同じ取引であるので削除する。

③ 仕入れに関する取引

a. ~~(借) 仕入 100,000 (貸) 現金 100,000~~

※①の b.と同じ取引であるので削除する。

b. (借) 仕入 80,000 (貸) 支払手形 80,000

c. (借) 仕入 250,000 (貸) 買掛金 250,000

d. (借) 仕入 50,000 (貸) 受取手形 50,000

※第 1 問の 2 の解説参照

- e. (借) 仕 入 100,000 (貸) 前 払 金 100,000
 ※問題文の「手付金」は、商品を仕入れるさいに支払った手付金(前払金(資産))である。手付金(内金)を支払ったとき前払金勘定の借方に記入し、商品を引き取ったときその貸方に記入する。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.110 参照

- f. (借) 買 掛 金 20,000 (貸) 仕 入 20,000
 ※返品、値引は反対仕訳と覚える。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.110 参照

④ 売上げに関する取引

- a. (借) 受取手形 200,000 (貸) 売 上 200,000
 ※約手・為手問わず手形を受け入れたときは受取手形勘定で処理する。
- b. (借) 前 受 金 120,000 (貸) 売 上 120,000
 ※問題文の「手付金」は、商品を売上げたさいに受け取った手付金(前受金(負債))である。手付金(内金)を受け取ったとき前受金勘定の貸方に記入し、商品を引き渡したその借方に記入する。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.110 参照

- c. (借) 売 掛 金 550,000 (貸) 売 上 550,000
 d. (借) 売 上 5,000 (貸) 売 掛 金 5,000

⑤ その他の取引

- a. (借) 支 払 家 賃 60,000 (貸) 前 払 家 賃 60,000
 ※前払家賃(前払費用)は、次期の最初の日付でもとの費用の勘定に振り替えなければならない。つまり、再振替仕訳が必要である。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.160 参照

- b. (借) 貸倒引当金 15,000 (貸) 売 掛 金 15,000
 ※前期に発生した売掛金が当期に貸し倒れになったときは、貸倒引当金を取り崩す。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.150 参照

- c. (借) 買 掛 金 50,000 (貸) 支 払 手 形 50,000
 ※為替手形を引き受けたときの仕訳である。第 1 問の②の確認およびテキスト P.95 の解説を参照。

II. 合計残高試算表の作成する。

- ① 以上の仕訳を集計し、勘定科目ごとの残高を答案用紙に記入する。
 初心者は、次の例のように T 字勘定を書いて残高を計算すると良い

【例】

現金勘定と支払手形を例に解説すると次のようになる。

現金				支払手形			
ア 12/31	380,000	1.a	40,000	2.c.	100,000	ア 12/31	200,000
1.c	50,000	1.b	100,000			3.b	80,000
1.f.	100,000	1.d	5,000			5.c.	50,000
		1.e	7,000				
			378,000		230,000		
イ	530,000	イ	152,000	イ	100,000	イ	330,000

手順 (1) 前期末の貸借対照表の金額を記入する。(ア)

(2) 1 月中の取引を転記する。(斜体部分)

(3) 借方・貸方それぞれの合計額をメモ書きする。(イ)

(4) 残高を計算する。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.36 参照

現金の残高は、大きい方 (¥530,000) から少ない方 (¥152,000) を差し引いた ¥378,000 であり、大きい方の借方に生じる。支払手形の残高は、大きい方 (¥330,000) から少ない方 (¥100,000) を差し引いた ¥230,000 であり、大きい方の貸方に生じる。

「残高は大きい方から少ない方を差し引いて額で、大きい方に生じる」と覚える。

② 資本金の金額

前期末の貸借対照表と当期首の貸借対照表における純資産の関係は次のとおりである。

貸借対照表 (資産・負債は省略)

平成24年12月31日

資本金	2,000,000
当期純利益	136,000

貸借対照表 (資産・負債は省略)

平成25年1月1日

資本金	2,136,000
-----	-----------

※1 月末の合計試算表の資本金の金額は ¥2,136,000 (¥2,000,000 + ¥136,000) である。

Ⅲ. 合計試算表の借方合計額と貸方合計額が一致することを確認する。

第 4 問

【解答】

(1)	<u>仕入伝票</u> 平成25年1月21日 買掛金 180,000	<u>出金伝票</u> 平成25年1月21日 (買掛金) 30,000
(2)	<u>振替伝票 (借方)</u> 平成25年1月21日 (仕入) 150,000	<u>振替伝票 (貸方)</u> 平成25年1月21日 (買掛金) 150,000

【解説】

取引を 5 伝票制と 3 伝票制の 2 つの処理方法で起票する問題である。

① 取引の仕訳を行う。

取引	(借) 仕入 180,000	(貸) 現金 30,000
		買掛金 150,000

② (ア) 5 伝票制で起票する場合

仕入伝票	(借) 仕入 180,000	(貸) 買掛金 180,000
出金伝票	(借) 買掛金 30,000	(貸) 現金 30,000

※5 伝票においては、仕入取引は全額掛け取引として仕入伝票で処理する。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.131 参照

※起票上の注意

出金伝票は貸方が現金になる取引を記入する伝票である。したがって、出金伝票の勘定科目欄に相手勘定科目を記入する。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.127 参照

(イ) 3 伝票制で起票する場合

※3 伝票においては、一部振替取引について、取引を現金仕入と掛取引とに分解して処理する方法と、いったん全額を掛けによる仕入取引として処理する方法がある。ここでは、取引を分解して起票する方法なので、前者の方法で答える。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.129 参照

上記取引を仕訳すると次のようになる。

取引	(借) 仕入 30,000	(貸) 現金 30,000	… 出金伝票
	(借) 仕入 150,000	(貸) 買掛金 150,000	… 振替伝票

【参考】上記取引を後者の方法で仕訳すると次のようになる。

(借) 仕入 180,000	(貸) 買掛金 180,000	… 振替伝票
(借) 買掛金 30,000	(貸) 現金 30,000	… 出金伝票

第 5 問

【解答】

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	76,500			900			75,600	
当座預金	187,500						187,500	
受取手形	41,000						41,000	
売掛金	112,000			20,000			92,000	
売買目的有価証券	38,200			1,200			37,000	
繰越商品	46,000		42,000	46,000			42,000	
建物	3,000,000						3,000,000	
備品	750,000						750,000	
支払手形		28,000						28,000
買掛金		86,000						86,000
借入金		560,000						560,000
仮受金		20,000	20,000					
貸倒引当金		780		1,880				2,660
建物減価償却累計額		1,188,000		108,000				1,296,000
備品減価償却累計額		375,000		125,000				500,000
資本金		1,912,760	123,000					1,789,760
引出金	123,000			123,000				
売上		927,000				927,000		
仕入	438,500		46,000	42,000	442,500			
給料	252,000				252,000			
消耗品費	7,900			1,500	6,400			
支払保険料	13,440			3,360	10,080			
支払利息	11,500		460		11,960			
	5,097,540	5,097,540						
雑 (損)			900		900			
貸倒引当金 (繰入)			1,880		1,880			
有価証券評価 (損)			1,200		1,200			
消耗品			1,500				1,500	
減価償却費			233,000		233,000			
(前払) 保険料			3,360				3,360	
(未払) 利息				460				460
当期純 (損失)						32,920	32,920	
			473,300	473,300	959,920	959,920	4,262,880	4,262,880

【解説】

決算整理事項等にもとづいて、精算表を完成する問題である。

次の手順で解答する。

I. 決算整理事項等の仕訳を行い、整理記入欄に記入する。

⑥ 消耗品費勘定の整理

(借) 消耗品 1,500 (貸) 消耗品費 1,500
-資産-

※消耗品については次の二つの会計処理法がある。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.162 参照

	購入したとき消耗品費勘定で処理する方法	購入したとき消耗品勘定で処理する方法
購入時	消耗品費 ×× 現金預金 ×× <small>-費用-</small>	消耗品 ×× 現金預金 ×× <small>-資産-</small>
決算日	未使用高 ↓ 消耗品 ×× 消耗品費 ×× <small>-資産-</small>	使用高 ↓ 消耗品費 ×× 消耗品 ×× <small>-費用-</small>

試算表に消耗品費勘定（費用）があることから、購入したとき消耗品費勘定（費用）で処理していることがわかる。よって、未使用高を消耗品費勘定から消耗品勘定（資産）に振り替える。

⑦ 減価償却費の計上（定額法）

(借) 減価償却費 233,000 (貸) 建物減価償却累計額 108,000

備品減価償却累計額 125,000

建 物		備 品
取得原価	残存価額	取得原価
¥3,000,000 - (¥3,000,000 × 10%)	= ¥108,000	¥750,000
25年		6年
耐用年数		耐用年数

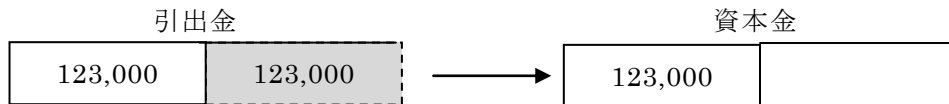
※備品は「残存価額は 0（ゼロ）」とあるので、取得原価を耐用年数で割って計算する。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.152 参照

⑧ 引出金の整理

(借) 資本金 123,000 (貸) 引出金 123,000

※決算時に引出金勘定の残高は資本金勘定に振替える。



新版日商簿記 3 級 テキスト P.171 参照

⑨ 前払保険料の計上

(借) 前払保険料 3,360 (貸) 支払保険料 3,360
-資産-

※保険料は 4 月 1 日に向こう 1 年分を支払っているの、支払額のうち次年度の 1 月 1 日から 3 月 31 日までの 3 か月分が前払い（次年度分）であることがわかる。そこで、前払分を支払保険料勘定（費用）から差し引くとともに、次期に繰

り越すために前払保険料勘定（資産）の借方に計上する。

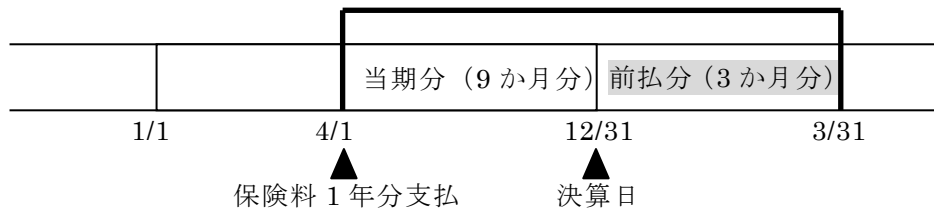


新版日商簿記 3 級 テキスト P.160 参照

・前払額の計算

$$\text{前払保険料} = \text{¥13,440} \times \frac{3\text{か月 (前払分)}}{12\text{か月}} = \text{¥3,360}$$

1 年分 (¥13,440) 支払



※ 前払保険料勘定が資産であることをしっかりと理解する。

⑩ 未払利息の計上

(借) 支払利息 460 (貸) 未払利息 460

※借入金のうち¥60,000 は、利息の支払いが満期日に行われるため、借り入れた 9 月 1 日から決算日までの 4 か月分の利息は未払(まだ支払っていない)である。そこで、正しい損益計算を行うために、未払額を未払利息勘定(負債)と支払利息勘定に計上する。

$$\text{支払利息} = \frac{\text{借入金}}{\text{¥60,000}} \times 2.3\% \times \frac{4\text{か月 (9月~12月)}}{12\text{か月}} = \text{¥460}$$

※ 未払利息勘定が負債であることをしっかりと理解する。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.165 参照

— 精算表を作成する —

(1) 勘定科目ごとに、残高試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減し、その結果を損益計算書欄または貸借対照表欄に記入する。そのさい以下のことに注意する。

① 試算表欄の金額と整理記入欄の金額とを加減するとき、貸借同じ側にある金額は加算し、反対側にある金額は減算する。

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	46,000①		42,000②	46,000③				

※46,000 (①) と同じ借方にある 42,000 (②) は加算し、反対側にある 46,000 (③) は減算する。

- ② 資産・負債・資本の各勘定の金額は貸借対照表欄に記入し、収益・費用の各勘定の金額は損益計算書に記入する。

- (2) 精算表を作成するにあたって次の勘定科目が何の勘定か間違えないようにする。

前払保険料・消耗品 … 資産

未払利息 … 負債

雑損・貸倒引当金繰入・有価証券評価損・減価償却費 … 費用

※貸倒引当金勘定は売掛金および受取手形の評価勘定であり、減価償却累計額は備品の評価勘定である。精算表を作成するときはいずれも負債の側に記載する。

- (3) 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、その差額を当期純損益の行のそれぞれ金額の少ない側に記入する。そのさい、以下の 2 点に気を付ける。

- ① P/L の借方と B/S の貸方に上記差額を記入したときは、差額を記入したと同じ行の勘定科目欄に「当期純利益」と記入する (P/L の貸方と B/S の借方に差額を記入したときは当期純損失と記入する)。
- ② 各欄の借方・貸方の金額を合計し、合計金額を記入する。